



## 組織拡大、貨物超低額回答打破 大失業攻撃にたち向う

### 要求と闘い

## 新たな春闘をつくろう

ストライキで三八、〇〇〇円賃上げ、  
貨物超低額回答粉碎しよう!

われわれの要求

- ①三八、〇〇〇円の賃上げ獲得—JR貨物の超低額回答粉碎
- ②年金支払い年齢の引き上げに応じた定年延長と65歳まで働ける労働条件の確立、59歳以降の賃金引き下げ制度の廃止
- ③第二基本給制度の廃止
- ④差別なき基準昇進制度の確立

怒りは頂点に!

—生活実態調査は語る—

本年一月、動労総連合が全組合員を対象にして実施した「生活実態ならびに賃金引き上げ要求に関する調査」では職場・家庭に不満と怒りが充満していることが明らかにされている。

まず、生活実態では昨年同時期に比較して「非常に苦しくなった」が33・2%、「やや苦しくなっている」が39%、「同じだと思ふ」が32・7%で「良くなっている」はゼロである。

また、現在の生活程度について79・4%の者が不満足を訴え、強く改善を求めている。

—生活費について・借金でやりくり!

「家計は毎月の賃金で間に合いましたか」について90・1%が不足したと答え、その補填については「期末手当をあてる」が42・2%、「貯金をおろす」が24・8%、「妻の収入」が23%を占め、その他借金等によりやりくりしている状態にある。

—改善を求めている項目

「交際費・小遣い」「ローンや借金の返済」「貯金」「趣味・レジャー」が十一項目名中上位を占めている。

こうした実態を踏まえ、組合員が要求している引き上げ額の平均は四〇、五一五円である。

特に、JR貨物に働く仲間には、賃金の引き上げや期末手当での支払いがJR各社中最低水準に抑制され、その格差が年々広がる中で、怒りが職場に充満している現実が示された。

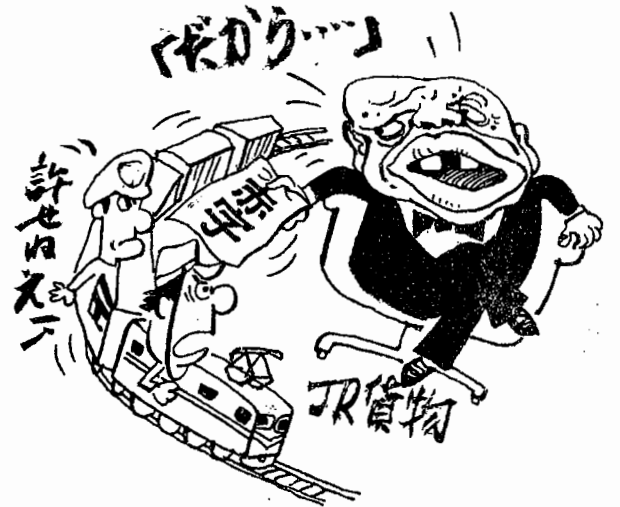
### 春闘と結合し、懸案要求の解決へ

二〇〇〇年春闘と結合し、懸案要求の解決を求め、三月下旬に向けて集中した闘いを展開する。

- ①清算事業団一〇四七名の解雇撤回・原職復帰、②強制配転者の原職復帰、予科生の士職登用と不当労働行為根絶、③貨物3月ダイ改—基地統廃合攻撃、東日本検修合理化攻撃粉碎—運転保安確立。

### 闘いの展開

二、三月を春闘総行動月間として、二月全支部対話オルグを実施し(継続中)、二・二九強制配転・士職登用差別粉碎の中間要請行動を貫徹し、二・二六、二七「春闘学習・交流集



会」を圧倒的に打ちとり、春闘本番に向けての態勢を築いてきた。このたたかひのうえに、更に、職場での対話をおし進め、三月中・下旬決戦態勢を固めよう。

われわれは二〇〇〇年春闘を「組織拡大春闘」と位置づけ、春闘の全過程を通して、全力をあげて、一切をJR総連合体・組織拡大に集約する。この闘いは、今迎えている新たな時代に通用する動労千葉を創りあげる闘いであり、労働運動総体に決定的なインパクトを与える闘いである。

とりわけJR総連革マル、東労組解体に総力で立ち向かう。彼ら革マルは「シニア制度」の裏切り妥結を「成果」などと言いつつ、「60歳以上の雇用確保の実現」などペテンまで使って組合員をたぶらかし、動労千葉や国労への敵愾心をあおっている。

いまこそJR総連革マル解体・打倒へ●機は熟している。

新賃金交渉と昨年ダイ改以降の改善要求の団体交渉を強め、総決起集会の大結集、ストライキを配置し二〇〇〇年春闘を闘いぬこう。